

キャラクター名
緋村 みう (ひむら みう)

プレイヤー名

シンドローム	バロール ブルム=ストーカー		ワークス	探偵	カヴァー	探偵
	オプション		年齢	忘れた	性別	女
覚醒	命令	衝動	加虐	初期侵食率	30	%
出自	疎まれた子	経験	死と再生	邂逅	恩人	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	1	0	0			1	行動値	11
感覚	3	0	0			3	(非装備時)	11
精神	3	1	1			5	戦闘移動	16
社会	1	0	0			1	全力移動	32

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	6		交渉		
回避			知覚	1		意志	1		調達	3	
運転:	2		芸術:			知識:			情報:裏社会	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: 情報屋	
手配氏	
携帯電話	
『運営委員の袖章』	
応急手当キット	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
複製体	P	N		
イルム	P 好奇心	N 無関心		
テレーズ・ブルム	P 慕情	N 不安		
九ノ瀬 珠紀	P 連帯感	N 無関心		
薄墨 桜花	P 純愛	N 偏愛		
藤堂 綾女	P 慕情	N 恥辱		
エレナ	P 純愛	N 恐怖		

最大財産P: 8 残り財産P: 6

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセ:バロール	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	判定のクリ値をLv-							
蝕む赤	5	1	メジャー	視界	-	対決	-	
効果:	命中すると、Lvの邪毒を与える							
血の宴	2	3	メジャー	-	範囲(選択)	対決	-	
効果:	組み合わせた攻撃を範囲(選択)に変更する。シナリオLv回							
死神の瞳	5	3	メジャー	視界	単体	対決	-	
効果:	命中した対象が次に受ける攻撃のダメージを[Lv+2] dする。この攻撃でダメージは与えられない。効果はシーン終了か、次にダメージを受けた時							
トランキリティ	3	5	メジャー/リアク	-	-	-	-	
効果:	ダイスを[Lv+1]個。判定終了時HP5のロス							
ディメンジョンゲート	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

緋村みう、彼女は探偵事務所ではいろんな仕事を受け持っている。人妖問わずしかし、生まれはただの人間。数百年前に、疎まれて育ってきた。そして、中の妖怪の名は、イルミナ。西洋の悪魔、幻魔が気まぐれで作った存在である。失敗作として見向きもされなかったイルミナは、それでいいと思いいルムには何も感情は湧いていない。なので、気ままに人間界をうろついていた時に。死にかけていたみうに出会う。その時、悪魔の取引見たくみうの中に入り。半分妖怪になり一緒に生きることになる。それからは、気ままにずーっと楽に過ごしていた。しかし、所詮元々は人間。幻魔から作成された妖気にみうの身体が耐えられなかったのだ。その時は、力はイルミナのものとはいえ、半人間だからだ。しかし、みうはイルミナに消えてほしくない。自らの命を無くすことにしたのだ。「私が妖怪になりければイルミナは生きられる」。しかしみうの精神は耐えられなく死ぬというのに。何故、そこまでしてイルミナを生かそうとするのか。みうは、「初めての友達で、騙されても。それでも、一緒にいてくれたから」…と、みうは言い切った。その気持ちは……とても暖かく、嬉しく、これが人間なのだ。そう、思った。そして、イルミナはそのままみうの身体を。人間から妖怪にする。みうの身体を崩さないようにすることを優先したために、力がほぼ失われることとなる。今は、年配者として。古くから生きる存在として、探偵として人妖のために色々受け持っている。みうという名前は、そのままもっている。存在を忘れないために、この身体は元々彼女のものだからだから、この身体から変わることはない。みうのために生きるのだと